

日・中・韓の学術交流にみる高齢社会に対応したファッションデザイン 教育プログラムの構築

EDUCATION PROGRAM FOR FASHION DESIGN RESPONDING TO THE AGING SOCIETY BASED ON THE ACADEMIC INTERACTION BETWEEN JAPAN, CHINA, AND KOREA

見寺 貞子 芸術工学部ファッションデザイン学科 教授
笹崎 綾野 芸術工学部ファッションデザイン学科 准教授
渡邊 操 芸術工学部ファッションデザイン学科 助教
丹羽真由美 芸術工学部ファッションデザイン学科 前実習助手

Sadako MITERA Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Professor
Ayano SASAZAKI Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Associate Professor
Misao WATANABE Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Assistant Professor
Mayumi NIWA Department of Fashion and Textile Design, School of Arts and Design, Assistant

要旨

本研究は、現在、ファッションデザイン教育が、若者の体型や志向を対象に、西洋の衣服設計理論を基軸とした教育である現状に対し、「ユニバーサルファッション—国籍や年齢、障害の有無に関わらず誰もが快適な衣生活を送れるデザインの手法—」を、アジア地域の教育カリキュラムの基盤とし、アジア地域の文化、アジア人の体型やライフスタイルに適した衣服設計理論を構築することを目的としている。本報告は、「ユニバーサルファッション」と「温故創新—日本の伝統美と日本の機能美」をテーマに、中国・韓国でファッションショーや作品展示・シンポジウムを開催した経過や内容を説いている。これら一連の研究活動を通じて、ファッションデザイン教育関係者のみならず、福祉・医療関係者やファッション産業関係者、公的機関、報道関係も高い関心をもち、本研究の必要性が確認できた。また、韓国や中国では、自国の伝統文化を継承したいという意向が高まってきており、西洋ファッションとは異なる独自性あるアジアファッション教育の必要性も確認できた。

Summary

Currently, fashion design education is conducted targeting the physique and taste of young people based on Western fashion design theory. In this study, we aimed to build a fashion design theory suitable for Asian cultures and the body shapes and lifestyles of Asians, based on the education curriculum for the Asian region, which is “Universal fashion”. In this report, we explained the background and nationality, age, and presence or absence of disabilities.” In this report, we explained the background and contents of fashion shows, exhibitions, and symposiums with the themes of “Universal fashion” and “Learning lessons from the past – the beauty of tradition and function in Japan” held in China and Korea. Through a series of research activities, our study attracted the attention of not only people in fashion design education but also people in the welfare and healthcare sectors, the fashion industry, public institutions, and news media, thus confirming to us the importance of our research. In Korea and China, people increasingly desire to inherit the traditional culture of their countries, and we confirmed the necessity of fashion education that is unique to Asia and different from Western fashion.

1. 研究の背景と目的

現在、世界で高齢化が進む中、高齢者問題は先進国地域からアジア地域や途上国にも広がっている。中華人民共和国(以下、中国と称す。)は、2010年に、65歳以上の人口が1億3143万人となり、高齢人口が1億人を越える世界で唯一の国となった。韓国が2017年に、シンガポールが2019年に、タイが2022年に高齢社会(※1)に入る(図1)。そして高齢社会に入るまでの期間が、日本は24年、中国は23年、韓国は18年、シンガポールは20年と日本以上の短期間で高齢化が進展しているが、高齢社会に対応するための調査や研究、デザイン開発はまだ始まったばかりである。

本研究は、アジア地域のファッションデザイン教育が、若者の体型や志向を対象に、西洋の衣服設計理論を基軸とした教育である現状に対し、「ユニバーサルファッションー国籍や年齢、障害の有無に関わらず誰もが快適な衣生活を送れるデザインの手法ー」を、アジア地域の教育カリキュラムの基盤とし、アジア地域の文化、アジア人の体型やライフスタイルに適した衣服設計理論を構築することを目的とする。本報告では、中国・韓国の研究機関と連携し、ファッションデザイン教育に関する研究会及び情報交換会の開催、各国で実施した作品展示会の内容を報告し、アジア地域のファッションデザイン学术交流にみるアジア地域に適した衣服設計理論の意義や役割について考察する。

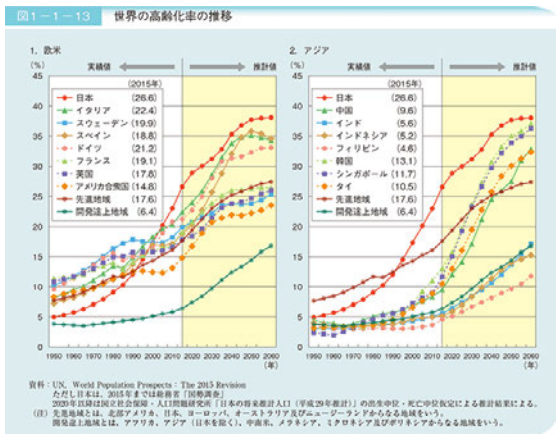


図1 世界の高齢化の推移

2. ファッションデザイン教育に関する情報交換会及び

ファッションショー・作品展示会への参加

2-1. 「伝統と現代の美学」作品展への参加

- ・主催：韓国ファッション文化協会
- ・日時：2018年7月3～5日
- ・場所：神戸ファッション美術館
- ・内容：韓国ファッション文化協会は、韓国の服飾系学識経験者・学生及びファッションデザイナー等で構成された団体である。韓国の伝統服飾品を現代に継承する目的を持ち、伝統服飾の要素を現代の衣服デザインに取り入れた作品展を国内外で開催している。著者と笹崎は、ユニバーサルファッションを視点とした着物をリメイクした作品2点ー日本の伝統美と機能美ーを展示発表した(写真1)。渡邊は、ジャカード織を用いた播州織素材を制作した。日本の伝統色である朱色と菜の花色をそれぞれメインカラーとし、朱色には金色糸、菜の花色には緑色糸を用い、印象が異なる生地制作を試みた(写真2)。



写真1(左) 着物をリメイクした作品

写真2(右) ジャカード織を用いた播州織素材

2-2. 「高齢社会へ向けての情報交換会」への参加

- ・主催：慈雲福祉財団
- ・日時：2018年9月16日 10:00～17:00
- ・場所：韓国大邱インターブルゴ・ホテル1階クラバルホール
- ・内容：現在、世界で高齢化が進む中、韓国も例外ではない。2050年には、韓国が世界で第2位となり、65歳以上の高齢人口比率が高い国となる。「老いていく世界2015報告書」(141カ国対象：米統計局発表)では、韓国の65歳以

上の人口比率は2050年に35.9%で、予想人口4337万人のうち1557万人が65歳以上になり、日本の40.1%に次いで2位になることが予想される。また、韓国は高齢化速度が最も速く、1980年に65歳以上の人口は3.8%にすぎなかったが、2000年には、7%以上の高齢化社会に、2017年には14%を超える高齢社会へ、2050年には35.9%まで急上昇し、急速な超高齢化が予想されている。さらに、韓国は急激な人口減少が予測され、2050年までに570万人減少、世界7位の人口減少国になると予想されている(引用:2016年03月31日11時58分 [© 中央日報/中央日報日本語版])。そのような背景の中、少子化がさらに進み、高齢者の医療費の増大、貧困層の増大等、その対策が急務となっている。

「高齢社会へ向けての情報交換会」は、韓国よりも早く高齢社会に入った日本から高齢問題に取り組んできた様々な事例を紹介し、韓国・日本の現状と課題から今後の高齢社会対策の一助とする情報交換会である(写真3.4)。各分野で活用できるヒントを探り、さらには他分野とのネットワークの仕組みを考える機会とした。韓国大邱側からは、慈雲福祉財団、大邱市医師会、大学関係者、韓国全国大学生ファッション連合会大邱支部等、約150名が参加し、日本側からは神戸芸術工科大学と京都工芸繊維大学が招待された。韓国側からは、慈雲福祉財団、大邱市医師会、大学関係者、韓国全国大学生ファッション連合会大邱支部150名が参加し、日本側から神戸芸術工科大学と京都工芸繊維大学が招待された。第1部では、韓国のベクスンヒ院長(紫雲福祉財団理事長、サランモアペインクリニックの代表院長)が、「韓国の高齢社会の現実と願い」をテーマに公演された。続いて日本から、「しあわせの村UDの取り組み」をテーマに、佃孝司氏(公益財団法人こうべ市民福祉振興協会企画運営本部経営企画課企画広報係)が公演され、日本韓国の高齢社会の現状と取り組みについて情報交換を行った。第2部では、「元気な高齢社会であるためのヒントについて語ろう」をテーマに、シニア支援に向けた研究発表を行った。桑原教彰教授(京都工芸繊維大学)は「人にやさしいロボットウェアラブル及びメディカルテキスタイル、AI研究」、田中幸夫氏(ドキュメンタリー映画監督)は「ドキュメンタリー映画「徘徊」「神様たちの街」を通じて考える日本の

高齢者の現実と課題」、見寺貞子は「ユニバーサルファッションーファッションは心と身体のビタミン剤ー」、笹崎綾野准教授は、「高齢者・障害者がおしゃれで快適な衣生活を送るためのヒント」を講演した。参加者は大変興味を示し、今後も継続していきたいとの多くの声を聴き、意味ある情報交換会であったことが示された。



写真3(左)パンフレット 写真4(右)会場の風景

2-3. 「International 21ST Fashion Art Exhibition」 作品展への参加

- ・主催：社)韓国ファッション造形協会
- ・日時：2018年10月4～9日
- ・場所：韓国釜山デザインセンター
- ・内容：社)韓国ファッション造形協会は、1998年に設立され、韓国の服飾系学識経験者・学生及びファッションデザイナー等で構成された団体である。「International 21ST Fashion Art Exhibition」は、ファッション造形の可能性を探求した作品展で毎年開催される(写真5)。著者は、ユニバーサルファッションを視点とした作品2点ー日本の伝統美と機能美ーを展示発表した(写真6)。

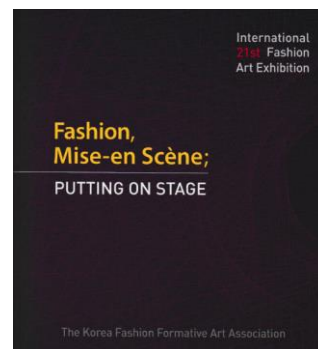


写真5(左)「International 21ST Fashion Art Exhibition」

冊子 写真6(右)着物をリメイクした展示作品

2-4. 「2018 FCA International Fashion Art Biennale」への参加

- ・主催：韓国ファッションビジネス学会/韓国ファッション文化協会
- ・日時：2018年10月18～21日
- ・場所：韓国ソウル
- ・内容：韓国ファッション文化協会と韓国ファッションビジネス学会の共同主催。韓国ファッションビジネス学会は、ファッションデザイン専攻の教員、院生、ファッションデザイナーで構成された団体である。このイベントには25か国のデザイナーが参加し、それぞれの作品を展示した。著者の作品（ユニバーサルファッションを視点とした作品ー日本の伝統美と機能美ー）が評価され、「Artist of the year 2018」を受賞した（写真7.8）。



写真7.8 「Artist of the year 2018」受賞作品

2-5. 日中平和友好条約締結40周年記念イベント

中国高齢社会へのファッション提案ーユニバーサルファッションー

- ・主催：中国人民対外友好協会、日中友好継承発展会、中国対外友好合作服務中心、NPO法人Philia
- ・日時：2018年11月26日（月）
- ・場所：中国 北京服装学院
- ・内容：現在、世界で高齢化が進む中、中華人民共和国（以下、中国と称す。）は、2010年に高齢人口が1億人を越える世界で唯一の国となった。さらに日本と同様、短期間で高齢社会に突入する中、中国政府は、豊かな高齢化国家に発展させるため、ひとりっ子政策の調整や高齢化によるリスク負担の軽減、シルバー産業を発展させ、新たな経

済成長の源として育成することを施策として提言している。しかし高齢社会に対応するための施策には関しては、対応に至っていない。そのような現状に対し、本学は、中国のファッションデザイン教育や産業において、今後の高齢社会に必要な「ユニバーサルファッション」ー国籍や年齢、障害の有無に関わらずだれもが快適な衣生活を送るデザイン手法ーを、中国のファッション教育・産業に普及し実現することを企画提案した。その企画が採用され、ユニバーサルファッションー温故創新ーをテーマに、基調講演、シンポジウム、ファッションショー、展示会を実施した。日本側の基調講演では、「アジア地域の高齢化社会におけるファッションの役割」（見寺貞子）、「日本の高齢社会の現状をドキュメンタリー映画から見る」（ドキュメンタリー映画監督）、「体に快適な衣服設計を考える」（笹崎綾野）が講演し、先に高齢社会に入った日本が研究開発した高齢者・障がい者用のモノづくりのノウハウや社会の仕組み、教育機関での取り組み等を紹介した。その後、中国側とのシンポジウムで意見交換を行った。



写真9 見寺貞子講演



写真10 笹崎綾野講演

ファッションショーでは、日本美シニアファッションショーー日本の伝統美「温故創新」日本の機能美ーをテーマに、作品70点を紹介した。古きをたずねて新しきパラダイム（物の考え方や捉え方）を創成するという高い志を表し、日本の伝統美である着物地を使って、機能美に配慮したファッションを提案した。作品を以下の10区分とし発表した。

- 1) 着物から現代服へ：着物は日本の伝統美。伝統美を次世代へ、現代服へと継承する（写真11）。
- 2) 日本の伝統柄をいかしたタウンウェア：多彩な自然の様子が描かれている日本の着物。魅力ある日本の伝統柄をシンプルに着る（写真12）。
- 3) 伝統美を追求したフォーマルウェア：日本の伝統色である金・銀・赤を使ったフォーマルウェア。シンプルな中

にみやびさを感じる(写真13)。



写真11 着物から現代服へ



写真12 日本の伝統柄をいかしたタウンウェア



写真13 伝統美を追求したフォーマルウェア

4) 機能美を持ち合わせるメンズカジュアル：だれもが動きやすいベストとシャツのコーディネート。気候に合わせてインナーで調整する(写真14)。



写真14 機能美を持ち合わせるメンズカジュアル

5) 立ち姿勢にも座り姿勢にも美しいウェア：車いす対応作品。着脱しやすく、体型も美しく見せるデザイン。車いす利用者に着心地よさを届ける(写真15)。



写真15 立ち姿勢にも座り姿勢にも美しいウェア

6) 安全・安心・動きやすいファッション：動きやすい日本古来の作務衣。危険から身を守る反射材。高齢者の日常着として着用する(写真16)。



写真16 安全・安全・動きやすいファッション

7) 伝統美と機能美を取り入れた学生作品：日本の伝統美と機能美の融合を考えた学生作品。着物地を使い、それぞれの個性や感性を発揮する(写真17)。



写真17 伝統美と機能美を取り入れた学生作品

8) 日本古来の藍で染めた古着：藍染めは日本古来の染色技法。古着を染めて伝統美としてよみがえる(写真18)。卒業生作品(阪本大熙)



写真 18 日本古来の藍で染めた古着

9) 温故創新：日本の伝統美である着物に機能美を加味したTシャツコーディネート。幅や丈・色・コーディネートで自由に楽しく装う(写真19)。



写真 19 温故創新

10) 中日友好親睦ウェア：日本の伝統美の着物地を使った中国のドレスとシャツ。日中の友好と未来を願う(写真20)。



写真 20 中日友好親睦ウェア

「和×ユニバーサルデザイン」をテーマにアクセサリーを丹羽真由美が製作した。フォーマルウェアには、伝統色の「金・銀」を使用し存在感ある雅やかな印象を与えた(写真14)。また、身を守る反射や蓄光作用のある素材を使用しファッションデザインの視点から安全性を提案した。

まとめ

本研究は、現在、全世界のファッションデザイン教育が、若者の体型や志向を対象に、西洋の衣服設計理論を基軸とした教育である現状に対し、「ユニバーサルファッション—国籍や年齢、障害の有無に関わらず誰もが快適な衣生活を送れるデザインの手法—」を、アジア地域の教育カリキュラムの基盤とし、アジア地域の文化、アジア人の体型やライフスタイルに適した衣服設計理論を構築することを目的としている。本報告は、「ユニバーサルファッション」と「温故創新—日本の伝統美と日本の機能美」をテーマに、中国・韓国でファッションショーや作品展示・シンポジウムを開催した経過や内容を示している。これら一連の研究活動を通じて、ファッションデザイン教育関係者のみならず、福祉・医療関係者やファッション産業関係者、公的機関、報道関係も高い関心をもち、本研究の必要性が確認できた。また、韓国や中国では、自国の伝統文化を継承したいという意向が高まってきており、西洋ファッションとは異なる独自性あるアジアファッション教育の必要性も確認できた。今後は、インドネシアやタイなどの東南アジアとも情報交換会を開催し、アジア地域の生活に根ざした独自性あるファッション教育法を構築していきたい。そして、2023年の「神戸ファッション都市宣言50周年記念事業」では、神戸がアジア地域のハブとなり、アジア地域のファッションデザイン教育に関するシンポジウムを開催したいと考える(写真21)。



写真 21 ファッションショー関係者たち

参考資料

※1 高齢社会：高齢社会とは、65歳以上の高齢者が総人口の14%以上に達した社会